

70年

談話の焦点

▶▶ 3

―戦後70年談話をどう位置付けるか。

「日米関係にとって非常に重要となる。今後10年間の国家戦略を示すようなものとも米国は捉える。中国、韓国も安倍政権が方向性を示す指針として注目している」

―望ましい内容は。

「日本は第2次世界大戦の敗戦国だ。米国や国際連合がつくった戦後秩序を受け入れることで経済発展を遂げ、平和と安全をつくり上げた。日本が戦後秩序へのチャレンジャー(挑戦者)と映るような



拓殖大学院教授

川上 高司さん

## 首相の指針を各国注視

談話だと揚げ足をとりられる」  
―安倍晋三首相は「未来志向」を重視している。

「良いことだ。自衛隊と米軍の役割分担を定めた日米防衛協力指針(ガイドライン)の改定で、南シナ海で日本が果たす役割は増大する。集团的自衛権の行使容認など安全保障法制も整え、経済面のみならず安保面で国際貢献していく姿勢は米国などに好感される」

「首相は自身が掲げる『積極的平和主義』の意味を詳しく説明すべきだ。まだ説得力が弱い。たとえば『日本国民のため』という文言を盛り込めば、民主主義の観点から厚みが出る」

―戦後50年の村山富市首相談話を用いた「侵略」のキーワードは引き継ぐべきか。

「日本は『侵略』という言葉葉を20年間継承してきた。削

かわかみ・たかし 1955年熊本県生まれ。拓殖大海外事情研究所長、同大学院教授(安全保障論)。著書に「アメリカ世界を読む」など。

除するなら中韓や米国内からの批判にどう応えるか、明確な見解を用意すべきだ」

―米政権の立場は。

「米国の世界戦略に及ぼす影響を注視している。オバマ政権は国防費の大幅削減方針を決めており、アジア太平洋地域の調和を追求するバランスーに変わった。談話を通じて日本の方向性が、世界情勢や米軍のアジア戦略にも大きく響く」

―談話をめぐる日本外交はどうあるべきか。

「米中韓などへの人念な根回しと説明が不可欠だ。国際情勢の正確な情報を官邸が吸い上げ、有識者懇談会でもしっかりと議論し、最終的に首相に判断してほしい」

―東アジア外交への影響は。

「中国は談話の一言一句に反応するだろう。談話発表で中韓が歴史問題で一枚岩となり、そこに米国が接近するシナリオは避けねばならない」